

高冷地新農業

1954年

No. 1



輕井沢ミチエリン会.

1. 一九五三年ヤロビ報告感想	遠山幸雄
2. ヤロビ馬鈴薯の試食会行方	全
3. 春播麦実る	井出義巳
4. 秋播麦農林二十七号ヤロビ報告	土屋敏
5. 春播麦失敗談	遠山丈男

発刊の辞

軽井沢三ヶ所リン会も冬足以来満一年を経過しました。此の向諸種の手情により其の成果を得られ
 ほかつたものもありましたが大体に於て今后此の見通しに対する基は人を礎き得たるは大きな成果
 であつたと思ひます。現在我園に於ける、馬肥栽培の農業技術は或る程度の限界に達して居りま
 した。今日の様な只單に肥料屋に奉仕する形式の農業技術では益々農村に於ける貧富の差を大き
 くするばかりでなくし、ては全体の農業経営を杜絶しに落し入れもの思ひます。
 幸にして胞底に熱をいだく浅間の一角に同志の集り新しい農業のゆめる貧乏人でもやれる農業技術
 並に経営への研究に果したるは將來に於ける行きづまつた農村に新しい光明をもたらすものとし
 て我々に在へないと思ひます。今後軽井沢三ヶ所リン会発展の爲にどしどし寄附さう下されんる
 をお願いすると共に皆さんの汚辱を祈り発行の挨拶いたします。
 一九五四年

井出包雄

一九五三年ヤロビの報告及感想

試験結果

軽井沢町借宿

遠山 幸雄

- ① 春播麦
井出義巳君の所で一泊して温度処理をする。発芽悪く結実の見込みないと思ひ掘り上げてしまふ。
- ② エンドウ
土居善美君の所で温度処理(最初井戸の中につるしたが、温度七度近くあるので雪の中に入れて)播
種の時には半分程腐つていた。発芽は非常に悪かつたが、発芽したものは非常に成績がよかつた。
- ③ 馬鈴薯
品種ハケ岳。温度処理(家外にもろを作り、隣をかける。朝寒い時は二度、日中は二十度近く)
なつてしまふので常識を保つのは困難であつた。ヤロビ期間中は四日、十日に一度夜轉する。
播種は五月一日、生育はあまりよくなかつた。收穫は少し大きいと思つ程度であつた。
- ④ ソバ
氷グラで協同で行つた。七月二十五日氷グラに入れる、八月七日迄ヤロビする。
播種八月八日。発芽、生育の種は大差がなかつた。
收穫の成績

(試験種子の量は一合、無肥料)

ヤロビ区	種長を測り得る重量(乾燥後)	実の収量
無處理区	五〇・一六〇 五〇・一九〇	一廿四合三勺 一廿五合
無處理区	五八・〇三〇 五八・〇三〇	

表・エンドウ、馬鈴薯、については温度處理が上手に出来なかつたので思はしくなかつた原因であつた
 と思うソバは一合の種子で一合三勺の増收になつてゐるので今年はどうなるか、ソバの蒔く季節が早く
 来ればと思う程、たのしみだ。
 今年は充分温度處理を考之一つ／＼最後迄やりうと思ふ。

參加者

井出包雄、土屋圭子、久能信重、遠山丈男、土屋敏、林田まことの、遠山幸雄、井出義巳、以上八名にて行はる。

試食等は林田まさの、井出義巳、遠山丈男、以上三人の栽培したもので、處理した手に處理しない等をどちらが味がよいか試食会をするこゝになり十一月三日公会場に集り茶をすうりながら、ゆで芋の喰いくらぶをする

栽培者						
遠山丈男	ヤロビ	無	ヤロビ	無	ヤロビ	無
井出義巳	ヤロビ	無	ヤロビ	無	ヤロビ	無
林田まさの	ヤロビ	無	ヤロビ	無	ヤロビ	無
かた	3	4	3	4	3	4
ますい	3	4	3	4	3	4
いこい	3	4	3	4	3	4
水気ある	3	4	3	4	3	4
そ粉がある	3	4	3	4	3	4
ふたでやりよ	3	4	3	4	3	4

試食の結果
ヤロビの芋はうまいことが確認されました。股肉量の批かんは他の方法と正確にする必要があることも栽培者はゆでる前に区別するために一方の芋に傷をつけてゆでた後傷をつけただけの方が水分が多くなつてしまつたのでこの点に注意する必要があることも

借宿井出義已

春播実況
やロビ開始は二月十五日・品種は農林十六号、農林二十七号、リッポウ九号、標本以上四種を行ふ。
播種は四月五日・やロビ期間中は農林は五〇日・伊賀は三〇日間である。農林二十七号は取付だが
六九号・十六号は出穂頃から赤さびにかゝり結実せず終つてしまつた。標本は五月一日頃には出穂
が出るかと思はれたが五月十日頃より分葉もし長くなつて来た。出穂は七月位にあられては取り
つたが秋播が雨の爲あつたので春播と同じに刈取つた。この種は一九九号の如く播種する予定

試驗結果

つたが利根の試験結果
馬鈴薯の試験結果
ヤロビの場所は三月では寒いので堆肥を利用した。常溫（大体七度から十度）でヤロビを育てた。播種は四月三十日、六月一日に収穫した。ヤロビの方より三寸長く葉も良く見え、根も粗大のものより太かった。水や肥料は別々に供給した。つたが等はヤロビの方の方が揃って良かつた。

秋時
農林
二七
男
春化
地
理
報
告

三月二〇日）内通を終えてヤロビを開始（厚い爲光遮理し始む）夜は静屋の電光を利用し時空つにう
につれ根が始めぬ。三月一日には一五cmに伸びる、時には湿度がたりなくて根が乾枯れた時さえあり
ました。湿度を加えれば又新根が出来て来りま也んでした（中には芽だけで根が本當に枯れたの例も見
けました）

(宣月二三日) 水令を充分供給してすみれに成にして蒔く。時に(葉は八割)砂はうすく丁寧に掛けた。もう
 して二十又日には約一匁となつて根が易いのはせう八本で少ないのは四、五となり
 葉も二枚となる。

〔五月三日〕今日見ると今ケツがぬまり、十日には二、三本となる。厚い所は伸長する。寒差ハ秋播麦は四月二十五日頃根幹に幼穂が出来て居た。

〔五月三日〕ミ、四本で挿しして幼穂が出来た。(一ヶ月遅れ) 又木茎は地面より十センチ、分岐部は五センチの所に各、穂が出来て居るのがはつきりわかる。(幼穂は秋蒔の遅蒔穂は柄長く、ヤロヒ長は穂長同じく、まはりが太い事にさすいた)

有十二日 出種見える。十八日に^出揃いと共に^花開きする、二十三日未だ^花盛り。

〔七月十四日〕 紐い実が入り、卒有いけで度付出来て居た。二十四收穫、少しぬれた。

今後は期日を無理したうめて、天候不順のため昨確なることは述べられないが実験経過は上記の通りである。尚対象区は島の関係で中止した。見通は期待するところである。

借宿遠山大男

春麦の試験報告

春麦の試験報告 品種、春播性種リイガナワオレゴ、三合にヤロビを行ひ、ヤロビ開始は三月一日私の行つたヤロビ法よりは三カン箱に一才位の厚さに入れ雪の中にうめる法を取りましたが、四五日頃気温が上昇したために、雪が非常に少くなり、六日夜に温度が下つたため、麦は氷結してしまい、今迄の方法を続けることが出来なくなり、その後は大きな箱に雪を集めて入れ、家の中に入れ、その中にうめる。然し気温は上昇の一方で雪は一日／＼へつてしまい、そのためヤロビ温度も上り、気温となりヤロビ適温を保つことは困難となる。十一日には一部発根を始めたが、三十日には発芽し、二分に伸長し、青味がかかる、四月三に播種する。ヤロビ期間中の管理としては週に一回攪拌して、湿気を当てるや、ヤロビ中の平均温度は三、四℃であつた。

蒔付の時には堆肥は普通に施し、追肥はせず。四月二二日には芽は地上二寸に伸長する。発芽歩合は悪く、貧弱なる芽が出る。其後調査をおこなつたが分ケツ本数は普通より少く、茎も、またで長かつた、成育は非常に良く出穂はいく分遅れだが穂は無處理区より大きく完全なる穂形にはなつたが、実のらずに終つてしまつた。無處理区とくらべると無区は発芽歩合は良かつたが一部出穂したただけで他は草丈が異つたばかりで幼穂形成はしたが出穂せず、終つてしまつた。実は全々いらず。

この様な結果を生んだ原因を考えて見ると、三月二十五日頃には播種で来るのでヤロビ開始をもつて早く行つて適度段階の次の光段階を長くしてやる必要が考えられる。適度虚理と光虚理を同時に行ふ事が出来る場合はその法方を取る事が一番理想的であるのではないだらうか、いずれにしても光の段階を伸するである。以上が失敗の第一原因と考えられる。次に適温を一定に保つるが出来ずにいつも適温上下しておつたことが考えられる以上が今年の大きなる失敗点と考えられる。

こゝで、麦の收穫が可能となつた時の有利さは、①、しみが強い爲にしみ枯・雪腐病等又他の病害でやられた場合の対策となる。③前作を取らぬに、春時になるが、春時にはその必配なく前作を考へる。

必要なくなる。③秋他の仕るゝかち合つた場合に春時が出来る。(播種期を失した等の場合)非常に
遅く播種は越冬があるのびえいきようが大きい。④基肥のみで追肥の必要がない(今年の試験による結
果)ので肥料代の節約等以上四つの点が考えられる。
今年も續けて昨年以上の研究に持つていき、秋時と同様又はそれ以上の收穫に持つて行くよう將來に
きたいを持つて昨年の失敗談を成功談にしよと希望を持つてゐる。

輕井沢三ヶヶリン会共済會、發行所、輕井沢三ヶヶリン會共済會
高冷地農業カ一号 一月二〇日發行 定価一圓五円

90
8
320
85
160
256
2720

3500
245